

## 令和4年度 学校経営計画書

学校番号	50	学校名	静岡県立島田工業高等学校	校長名	石川 徹
------	----	-----	--------------	-----	------

## 1 目指す学校像

## (1) 教育目標

校訓「璞磨 ～誠実・叡智・創造～」のもと、社会の発展に寄与し、時代の変化に柔軟に対応できる技術者の育成を目標に、「東海道随一の工業高校」を目指す。

- ア 産業界の進展に応じ、明るく健康で、教養豊かな、創造性に富む技術者を育成する。
- イ 誠実で礼儀正しく、互いに協力できる人を育成する。
- ウ 自主的に学び、勤労を尊び、努力を惜しまぬ人を育成する。

## (2) 目標具現化の柱

- ア 「自立・協働」の精神のもと、生活習慣を確立し人間としての基礎力を育成する。
- イ 普通教科と工業各科において教科横断的な授業改善を行い、基礎学力の定着とこれを活用する能力を育成する。
- ウ 将来の工業技術者としての基礎を育成するとともに、資格取得や国際理解教育を推進し、学び続ける技術者を育成する。
- エ キャリア教育を実践し、各々が高い志をもち主体的に自己実現を果たしていく生徒を育成する。
- オ 安全教育・防災教育・環境教育の実践による理解の定着と深化を図り、幅広い知見を身に付けさせる。
- カ ICT を活用した効果的な教育活動を研究・推進する。また、教育の質を確保しつつ業務改善を推進しその適正化を図る。
- キ 積極的な情報発信や連携により地域との協調を促進させ、信頼される学校作りを推進する。
- ク 組織的な業務改善を推進し、生徒に向き合う時間の確保と教職員の心身の健康及び保持増進につとめる。

## 2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	<b>「自立・協働」の精神のもと、生活習慣を確立し人間としての基礎力を育成する。</b>	登校指導はじめ日常の指導をとおして、生活習慣を確立させる。特別な支援を必要な生徒について、合理的な配慮をしていく。	生徒アンケートにおいて、「挨拶がしっかりできている」「場に応じた着こなしを心掛けている」と答える生徒 100%、遅刻者1日1人以内とする。 こころと身体のチェックリスト調査と学校生活アンケートを実施し、結果を共有していく。	生徒 学年 保健 教務
		部活動への積極的な参加をとおしてコミュニケーション能力を育成するとともにたくましい精神を育てる。	部活動への加入率 95%以上とする。 全国大会出場2種目以上 東海大会出場3種目以上 県大会出場10部活以上	生徒
		自主性・社会性を育てるため行事・生徒会活動を生徒主体に活性化する。	生徒アンケートにおいて、「各種行事で協力し合っている」と答える生徒 90%以上とする。	
		朝読書等をとおして豊かな感性を育む	図書館の利用者数を延べ3000人とする。	図書
イ	<b>学習習慣を定着させ、基礎学力の向上とこれを活用する能力の育成を図る。</b>	1Pノートを活用し学習習慣を定着させるとともに、主体的に取り組む生徒を育てる。	生徒アンケートにおいて、家庭での学習平均時間60分以上と答える生徒 50%、課題や提出物を提出していると答える生徒 95%とする。	教務 教科 学科
		学びの基礎診断を定期的実施し、学習状況を把握するとともに、学習力の向	学習到達度判定において、学習力の低い(Dゾーン)生徒の人数を減少させる。	教務 学年 全体

		上を努める。		
		G I G Aスクール構想の実現に向けて、教育用クラウドサービスの活用を促進する。	学習系クラウドサービス(GWSなど)を授業や部活動で活用している教員 60%以上とする。	教務
		指導力向上に向けて、校内研修を充実させ、学習会への参加を促す。	授業改善や ICT 活用に関する研修を 4 回以上実施する。	教務
ウ	将来の工業技術者として必要な基礎知識と技術を身に付けさせ、高度な技術に挑戦する意欲を育てるとともに、国際理解教育を進める。	実習や課題研究をとおしてもものづくりの手法を学び、アイデアを形にする体験をさせる。	課題研究論文集を作成し、校内での学習成果の情報共有を図る。	工業科全体
		資格取得のための補習等を積極的に実施する。	1 人 1 資格以上の取得（合格）。ジュニアマイスターにおいて、各科ゴールド・シルバー合せて 4 名以上取得する。	
		全学科において、工業系の各種大会に積極的に参加する。	工業系各種県大会において 5 団体以上が上位入賞する。	
エ	3 年間を見据えた進路計画に基づき、個に応じた進路目標の設定とその達成を目指す。	進路説明会、LHR 等を活用し志を育む進路指導を充実させる。	学校紹介就職内定率 100% 公務員 15 名以上合格もしくは希望者 85%以上合格	進路学年
		進路検討会を充実させ、進学希望者の指導を組織的に行う。	国公立大学への受験者が前年度を上回る。	全体 進路学年
		キャリア教育として職業研究やインターシップを充実させる。	生徒アンケートにおいて、進路目標の早期作成に取り組んでいると答える生徒 83%以上とする。	1・2 学年工業科 進路
		進学説明会を充実させ、進学希望者の指導を組織的に行う。	上級学校進学希望者 100%実現。進学者のうち指定校推薦以外の受験者が前年度を上回る。	進路
オ	教職員が豊かな知識や高い技術を身に付け、生徒に社会生活を営む上での幅広い知見を身に付けさせる。	実践をとおして危機管理能力を高める。	安全防災意識を高めるため学期ごと講話等行う。	生徒 総務
		将来の技術者に不可欠な地球環境を意識した態度を身に付けさせる。	校内環境整備の徹底と、資源の節約意識を定着させる。	保健 工業科 事務
		教職員が豊かな知識や高い技術を身につけるための研修を実施する。	校内研修を 5 回以上実施する。	教務 保健 教育相談
カ	教育の情報化等の整備を進め、教育の質を確保しつつ業務改善を推進しその適正化を図る。	授業の改善等における ICT 活用や校務の情報化を推進する。	生徒アンケートにおいて、「学校は ICT を取り入れた授業に努めている」と答える生徒 80%以上とする。	教務 研修
		効率的に教育効果を上げる取り組みを行う。	休暇取得促進日を 9 割以上の職員が取得する。	全体
キ	地元小学校・中学校、保護者、地域住民と積極的に連携することをとおして、信頼される学校を目指す。	地域との連携を推進するとともに、広報活動を充実する。	地元小・中学校への出前授業やものづくり教室を年 7 回以上実施する。	工業科
			理事会、PTA だよりを通して確実に情報を公開する。保護者参加行事の環境を整える。	総務
			保護者アンケートで「学校はホームページ等は定期的に更新している」と答える保護者の割合が 80%、島工通信を年 5 回以上発行する。	全体 教務
ク	教育の質を保持しながらも教職員の負担の軽減を推進し、教職員の	外部の専門人材との連携、協働等、人的資源の活用に努め、教員の勤務時間削減	文化の匠、SC、部活動支援員等の外部人材を 4 人以上配置する。	管理職

	心身の健康の保持増進を図る。	に繋げる。	教員 1 人あたり週 45 分の時間外勤務の削減を実現する。	
		職員の不祥事を根絶する。	根絶に向けての研修を 10 回以上実施する。	全体研修